

# 業務及び財産の状況に関する説明書

## 【2019年3月期】

この説明書は、金融商品取引法第46条の4の規定に基づき、全ての営業所若しくは事務所に備え置いて公衆の縦覧に供するため、又はインターネット等で公表するために作成したものです。

株式会社FOLIO

I. 当社の概況及び組織に関する事項

1. 商号 株式会社FOLIO

2. 登録年月日 平成 29 年 4 月 4 日  
 (登録番号) ( 関東財務局長(金商)第 2983 号 )

3. 沿革及び経営の組織

(1) 会社の沿革

年 月	沿 革
2015 年 12 月	東京都港区にて株式会社 Folio 設立
2016 年 1 月	第三者割当増資による 2 億 9,990 万円の資金調達
2016 年 12 月	東京都千代田区に本店移転 商号を株式会社 Folio から株式会社 FOLIO に変更
2017 年 2 月	第三者割当増資による 18 億 37 万円の資金調達
2017 年 4 月	第1種金融商品取引業登録(関東財務局長(金商)第 2983 号)
2017 年 7 月	「テーマ投資」サービスの限定公開
2017 年 11 月	「テーマ投資」サービスの一般公開
2018 年 1 月	第三者割当増資による 69 億 7,973 万円の資金調達
2018 年 10 月	「LINE スマート投資」サービス開始
2018 年 11 月	「おまかせ投資」サービス開始

(2) 経営の組織(2019 年 3 月 31 日現在)



4. 株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

氏名又は名称	保有株式数	割合
1. LINE Financial 株式会社	164,370 株	26.07%
2. 甲斐真一郎	61,400 株	19.48%
3. A-Fund II, L.P.	40,836 株	12.95%
4. Draper Nexus Technology Partners 2号投資事業有限責任組合	18,930 株	6.01%
5. Rakuten Europe S.a.r.l.	18,515 株	5.87%
6. ジャフコ SV5 共有投資事業有限責任組合	17,464 株	5.54%
7. ジー・エス・グロス・インベストメント合同会社	11,738 株	3.72%
8. 梶原俊一	8,800 株	2.79%
9. Komsit Prakobphol	7,500 株	2.38%
10. 広野萌	6,000 株	1.90%
10. 竹村光	6,000 株	1.90%
その他 ( 17 名)	35,861 株	11.38%
計 27 名	397,414 株	100.00%

5. 役員(外国法人にあつては、国内における代表者を含む。)の氏名又は名称

役職名	氏名又は名称	代表権の有無	常勤・非常勤の別
代表取締役社長	甲斐 真一郎	有	常勤
取締役	梶原 俊一	無	常勤
取締役	中野 西喬	無	常勤
監査役	若松 宗継	無	常勤
監査役	吉松 文雄	無	常勤

6. 政令で定める使用人の氏名

- (1) 金融商品取引業に関し、法令等(法令、法令に基づく行政官庁の処分又は定款その他の規則をいう。)を遵守させるための指導に関する業務を統括する者(部長、次長、課長その他いかなる名称を有する者であるかどうかを問わず、当該業務を統括する者の権限を代行し得る地位にある者を含む。)の氏名

氏名	役職名
高田 佳代子	コンプライアンス部長

- (2) 投資助言業務(金融商品取引法(以下、「法」という。)第 28 条第6項に規定する投資助言業務をいう。)又は投資運用業(同条第4項に規定する投資運用業をいう。)に関し、助言又は運用(その指図を含む。)を行う部門を統括する者(金融商品の価値等(法第2条第8項第 11 号ロに規定する金融商品の価値等をいう。)の分析に基づく投資判断を行う者を含む。)の氏名

氏名	役職名
井上 輝彦	投資戦略部長

7. 業務の種別

- ・金融商品取引法第 28 条第1項第1号及び第5号に掲げる行為に係る業務
- ・投資運用業

8. 本店その他の営業所又は事務所(外国法人にあつては、本店及び国内における主たる営業所又は事務所その他の営業所又は事務所)の名称及び所在地

名 称	所 在 地
本 店	〒102-0082 東京都千代田区一番町 16-1 共同ビル一番町 4F

9. 他に行っている事業の種類

該当はありません。

10. 苦情処理および紛争解決の体制

当社は第一種金融商品取引業の業務に関して、特定非営利活動法人 証券・金融商品あつせん相談センターとの間で特定第一種金融商品取引業務に係る手続実施基本契約を締結しており、苦情等の迅速な解決を図るべく、外部機関等と紛争等解決のために適切に協力する体制を整備しております。

11. 加入する金融商品取引業協会及び対象事業者となる認定投資者保護団体の名称

金融商品取引業協会：日本証券業協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

認定投資者保護団体：特定非営利活動法人 証券・金融商品あつせん相談センター

12. 会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号

該当はありません。

13. 加入する投資者保護基金の名称

日本投資者保護基金

## II. 業務の状況に関する事項

### 1. 当期の業務の概要

当期は、前事業年度より継続して提供してきた「テーマ投資」のサービス本格リリースに加え、ロボアドバイザーサービスである「おまかせ投資」サービスの提供開始や、コミュニケーションアプリ「LINE」のプラットフォームにおける「LINE スマート投資」サービスの提供開始など、多くの開発中であったサービスの提供を開始するとともに、2019年1月からはTVCMを含めたプロモーションの強化を行い、一定の認知獲得及び口座数増加に繋がりました。

また、顧客が求めている機能の開発や、社内の基盤サービスの強化を目的とした開発の進行等、サービスの品質向上に努める一方、証券会社に求められる内部管理態勢の一層の強化についても取り組んでまいりました。

この結果、当事業年度の営業収益は11百万円、営業損失は2,434百万円、経常損失は2,423百万円、当期純損失は2,427百万円となりました。

### 2. 業務の状況を示す指標

#### (1) 経営成績等の推移

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期
資本金	100	100
発行済株式総数	397,414株	397,414株
営業収益	14	11
(受入手数料)	7	20
((その他の受入手数料))	7	20
(トレーディング損益)	5	△11
((株券等))	5	△9
((その他))	—	△2
純営業収益	14	11
経常損益	△805	△2,423
当期純損益	△834	△2,427

#### (2) 有価証券引受・売買等の状況

##### ① 株券の売買高の推移

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期
自 己	2,208	5,423
委 託	—	—
計	2,208	5,423

② 受益証券の売買高の推移

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期
自 己	—	659
委 託	—	—
計	—	659

- ③ 有価証券の引受け及び売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況  
該当する事項はありません。

(3) その他業務の状況

特記事項はありません。

(4) 自己資本規制比率の状況

(単位：%、百万円)

	2018年3月期	2019年3月期
自己資本規制比率 (A/B×100)	4,283.5%	1,108.5%
固定化されていない自己資本 (A)	7,817	5,102
リスク相当額 (B)	182	460
市場リスク相当額	14	33
取引先リスク相当額	11	29
基礎的リスク相当額	155	397

(5) 使用人の総数及び外務員の総数

(単位：名)

	2018年3月期	2019年3月期
使用人	54	88
(うち外務員)	22	32

### Ⅲ. 財産の状況に関する事項

#### 1. 経理の状況

##### (1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産	8,117,935	5,865,429
現金・預金	7,773,841	5,098,556
預託金	200,000	560,000
顧客分別金信託	200,000	560,000
トレーディング商品	93,047	96,181
商品有価証券等	93,047	96,181
約定見返勘定	3,651	6,203
前払費用	22,093	77,902
未収入金	23,174	23,911
未収収益	1,184	865
その他の流動資産	942	1,807
固定資産	178,628	410,244
有形固定資産	30,918	35,936
建物	6,018	3,234
建物附属設備	7,827	6,551
器具・備品	17,072	26,150
無形固定資産	44,199	164,606
ソフトウェア	39,759	164,606
ソフトウェア仮勘定	4,440	—
投資その他の資産	103,511	209,701
投資有価証券	347	100,347
長期差入保証金	54,482	66,571
長期前払費用	48,680	42,782
資産合計	8,296,564	6,275,674

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債	278,109	684,414
預り金	184,416	471,070
顧客からの預り金	168,480	458,549
その他の預り金	15,936	12,520
未払金	15,305	69,913
未払費用	74,587	139,630
未払法人税等	3,800	3,800
特別法上の準備金	23	68
金融商品取引責任準備金	23	68
負債合計	278,132	684,482
純資産の部		
株主資本	8,018,431	5,591,191
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	9,000,021	9,000,021
資本準備金	4,545,010	4,545,010
その他資本剰余金	4,455,010	4,455,010
利益剰余金	△1,081,589	△3,508,830
その他利益剰余金	△1,081,589	△3,508,830
繰越利益剰余金	△1,081,589	△3,508,830
純資産合計	8,018,431	5,591,191
負債及び純資産合計	8,296,564	6,275,674



## (2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 〔自 2017 年 4 月 1 日〕 〔至 2018 年 3 月 31 日〕	当事業年度 〔自 2018 年 4 月 1 日〕 〔至 2019 年 3 月 31 日〕
営業収益		
受入手数料	7,305	20,644
その他の受入手数料	7,305	20,644
トレーディング損益	5,371	△11,624
株券等トレーディング損益	5,371	△9,577
その他のトレーディング損益	—	△2,046
金融収益	2,051	2,582
営業収益計	14,728	11,603
金融費用	353	521
純営業収益	14,375	11,082
販売費・一般管理費		
取引関係費	136,818	983,554
人件費	359,652	770,938
不動産関係費	108,360	257,608
事務費	110,828	187,709
減価償却費	33,623	61,338
租税公課	24,895	134,766
その他	22,584	49,532
販売費・一般管理費計	796,762	2,445,449
営業利益（又は営業損失）	△782,387	△2,434,367
営業外収益	9,961	10,971
営業外費用	33,515	—
経常利益（又は経常損失）	△805,941	△2,423,395
特別損失		
投資有価証券評価損	11,505	—
固定資産除却損	7,699	—
事務所移転費用	5,819	—
金融商品取引責任準備金繰入れ	23	44
特別損失計	25,048	44
税引前当期純利益（又は税引前当期純損失）	△830,989	△2,423,440
法人税、住民税及び事業税	3,800	3,800
法人税等調整額	—	—
当期純利益（又は当期純損失）	△834,789	△2,427,240

## (3) 株主資本等変動計算書

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	1,060,136	1,050,136	—	1,050,136	—	—	△246,799	△246,799
当期変動額								
新株の発行	3,494,874	3,494,874	—	3,494,874	—	—	—	—
資本金から剰余金への振替	△4,455,010	—	4,455,010	4,455,010	—	—	—	—
当期純損失	—	—	—	—	—	—	△834,789	△834,789
当期変動額合計	△960,136	3,494,874	4,455,010	7,949,884	—	—	△834,789	△834,789
当期末残高	100,000	4,545,010	4,455,010	9,000,021	—	—	△1,081,589	△1,081,589

	株主資本		評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	—	1,863,473	—	—	—	—	—	1,863,473
当期変動額								
新株の発行	—	6,989,748	—	—	—	—	—	6,989,748
資本金から剰余金への振替	—	—	—	—	—	—	—	—
当期純損失	—	△834,789	—	—	—	—	—	△834,789
当期変動額合計	—	6,154,959	—	—	—	—	—	6,154,959
当期末残高	—	8,018,431	—	—	—	—	—	8,018,431

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	100,000	4,545,010	4,455,010	9,000,021	—	—	△1,081,589	△1,081,589
当期変動額								
当期純損失	—	—	—	—	—	—	△2,427,240	△2,427,240
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	△2,427,240	△2,427,240
当期末残高	100,000	4,545,010	4,455,010	9,000,021	—	—	△3,508,830	△3,508,830

	株主資本		評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	—	8,018,431	—	—	—	—	—	8,018,431
当期変動額								
当期純損失	—	△2,427,240	—	—	—	—	—	△2,427,240
当期変動額合計	—	△2,427,240	—	—	—	—	—	△2,427,240
当期末残高	—	5,591,191	—	—	—	—	—	5,591,191

## 【注記事項】

当社の貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書は、「会社計算規則」(平成18年2月7日法務省令第13号)の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)、及び「有価証券関連業経理の統一に関する規則」(昭和49年11月14日日本証券業協会自主規制規則)に準拠して作成しております。記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

[2018年3月期 重要な会計方針に係る事項に関する注記]

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券およびデリバティブ取引の評価基準および評価方法

##### ① トレーディング商品に属する有価証券等

時価法を採用しております。

#### (2) トレーディング商品に属さない有価証券等の評価基準および評価方法

##### ① その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産

建物および建物附属設備につきましては、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は、建物2年、建物附属設備2年～15年であります。

器具・備品につきましては、定率法を採用しております。なお、主な耐用年数は、器具・備品2年～10年であります。

#### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。なお自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

#### (3) 長期前払費用

定額法を採用しております。

なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

### 3. 繰延資産の処理方法

株式交付費

支出時に全額費用処理しております。

### 4. 特別法上の準備金の計上基準

金融商品取引責任準備金

証券事故による損失に備えるため、金融商品取引法第46条の5の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」第175条に定めるところにより算出した額を計上しております。

### 5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

[2019年3月期 重要な会計方針に係る事項に関する注記]

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券およびデリバティブ取引の評価基準および評価方法

① トレーディング商品に属する有価証券等  
時価法を採用しております。

(2) トレーディング商品に属さない有価証券等の評価基準および評価方法

① その他有価証券  
時価のないもの  
移動平均法による原価法を採用しております。

② 関係会社株式  
移動平均法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

建物および建物附属設備につきましては、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は、建物2年、建物附属設備2年であります。

器具・備品につきましては、定率法を採用しております。なお、主な耐用年数は、器具・備品2年～10年であります。

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。なお自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) 長期前払費用

定額法を採用しております。

なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

3. 特別法上の準備金の計上基準

金融商品取引責任準備金

証券事故による損失に備えるため、金融商品取引法第46条の5の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」第175条に定めるところにより算出した額を計上しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

[2018年3月期 貸借対照表に関する注記]

1. 有形固定資産の減価償却累計額	13,669 千円
2. 取締役、監査役(執行役)に対する金銭債権及び金銭債務	4,282 千円

[2019年3月期 貸借対照表に関する注記]

1. 有形固定資産の減価償却累計額	34,783 千円
2. 取締役、監査役(執行役)に対する金銭債権及び金銭債務 短期金銭債務	3,906 千円
3. 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務 短期金銭債務	4,842 千円

[2018年3月期 損益計算書に関する注記]

該当はありません。

[2019年3月期 損益計算書に関する注記]

関係会社との営業取引及営業取引以外の取引の取引高の総額	
営業取引による取引高	
営業費用	6,369 千円

[2018年3月期 株主資本等変動計算書に関する注記]

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当期増加株式数	当期減少株式数	当事業年度末
普通株式	100,000 株	364 株	—	100,364 株
A種優先株式	38,800 株	—	—	38,800 株
B種優先株式	65,468 株	—	—	65,468 株
C-1種優先株式	—	110,597 株	—	110,597 株
C-2種優先株式	—	82,185 株	—	82,185 株
合計	204,268 株	193,146 株	—	397,414 株

2. 自己株式の種類及び総数に関する事項

該当はありません。

3. 剰余金の配当に関する事項

該当はありません。

4. 新株予約権(行使期間の初日が到来していないものを除く。)に関する事項

該当はありません。

[2019年3月期 株主資本等変動計算書に関する注記]

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当期増加株式数	当期減少株式数	当事業年度末
普通株式	100,364 株	—	—	100,364 株
A種優先株式	38,800 株	—	—	38,800 株
B種優先株式	65,468 株	—	—	65,468 株
C-1種優先株式	110,597 株	—	—	110,597 株
C-2種優先株式	82,185 株	—	—	82,185 株
合計	397,414 株	—	—	397,414 株

2. 自己株式の種類及び総数に関する事項

該当はありません。

3. 剰余金の配当に関する事項

該当はありません。

4. 新株予約権(行使期間の初日が到来していないものを除く。)に関する事項

該当はありません。

2. 借入金の主要な借入先及び借入金額

(2018年3月31日現在)

該当する事項はありません。

(2019年3月31日現在)

該当する事項はありません。

3. 保有する有価証券(トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。)の取得価額、時価及び評価損益

① その他有価証券で時価のあるもの

該当する事項はありません。

② 時価評価されていない有価証券

内容	前事業年度末(2018年3月31日)	当事業年度末(2019年3月31日)
	貸借対照表計上額(百万円)	貸借対照表計上額(百万円)
関係会社株式	—	100
投資その他の資産 その他(非上場株式)	0	0

4. デリバティブ取引(トレーディング商品に属するものとして経理された取引を除く。)の契約価額、時価及び評価損益

該当する事項はありません。

5. 財務諸表に関する会計監査人等による監査の有無

当社は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、第4期(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、あずさ監査法人により監査を受け、監査報告書を受領しております。



#### IV. 管理の状況

##### 1. 内部管理の状況の概要(2019年3月31日現在)

当社は、金融商品取引法その他関係法令、加入する自主規制機関等の諸規則および社内規程等の遵守を役職員に徹底し、コンプライアンス対応が適正に行われるよう、日本証券業協会の自主規制規則に基づき内部管理責任者を配置するとともに、内部管理統括責任者を内部管理の責任者として任命し、役職員に対してコンプライアンスに関する日々の指導、モニタリング等を行っております。

内部管理部門の内部管理に係る業務分掌は以下の通りです。

###### [コンプライアンス部]

- ・法令・協会規則・業務方法書等の遵守に関する業務
- ・事故の調査及び処理に関する業務
- ・顧客からの苦情、紛争の調査及び処理に関する業務
- ・顧客の有価証券の売買その他の取引の考査に関する業務
- ・マーケティング活動の状況の考査に関する業務
- ・広告審査に関する業務
- ・有価証券等の価格形成動向の監視に関する業務
- ・主務官庁等に対する承認及び認可の申請、届出、報告等に関する業務
- ・証券関係の法令、諸制度の調整及び分析に関する業務
- ・金融商品仲介業者の監督に関する業務
- ・その他法務、コンプライアンスに関する業務

###### [経営管理部]

- ・リスクの算定及び管理に関する業務
- ・資金の貸借、運用に関する業務

###### [内部監査室]

- ・監査計画の策定および実行に関する業務
- ・監査規程等の社内規程策定に関する業務
- ・業務監査に関する業務
- ・システム監査に関する業務
- ・その他内部監査に関する業務

##### 2. 分別管理等の状況

###### (1) 金融商品取引法第43条の2の規定に基づく分別管理の状況

###### ① 顧客分別金信託の状況

(単位：百万円)

項 目	2018年3月31日現在の金額	2019年3月31日現在の金額
直近差替計算基準日の顧客分別金必要額	158	448
期末日現在の顧客分別金信託額	200	560
期末日現在の顧客分別金必要額	158	442

② 有価証券の分別管理の状況

イ 保護預り等有価証券

有価証券の種類		2018年3月31日現在		2019年3月31日現在	
		国内証券	外国証券	国内証券	外国証券
株券	株数	254千株	一千株	582千株	一千株
債券	額面金額	一百万円	一百万円	一百万円	一百万円
受益証券	口数	一百万口	一百万口	一百万口	0百万口
その他	額面金額	一百万円	一百万円	一百万円	一百万円

ロ 受入保証金代用有価証券

該当する事項はありません。

ハ 管理の状況

お客様よりお預かりしている有価証券は、約款に基づく以下の保管形態で分別保管しております。

保管区分		保管場所	有価証券種類	保管及び照合方法	定期照合
保護預り等有価証券	混蔵保管	証券保管振替機構	国内証券	各保管場所(第三者保管機関)において、混蔵して保管しております。また定期的に、顧客毎の持分を記載した管理簿と当該第三者保管機関における残高とを照合しております。顧客有価証券については、当社帳簿等により各顧客の持分が直ちに判別できる状態で管理しております。	日次
		海外保管機関	外国証券		

③ 対象有価証券関連店頭デリバティブ取引等に係る分別管理の状況

該当する事項はありません。

(2) 金融商品取引法第43条の2の2の規定に基づく区分管理の状況

① 商品顧客区分管理信託の状況

該当する事項はありません。

② 有価証券等の区分管理の状況

該当する事項はありません。

(3) 金融商品取引法第43条の3の規定に基づく区分管理の状況

① 法第43条の3第1項の規定に基づく区分管理の状況

該当する事項はありません。

② 法第43条の3第2項の規定に基づく区分管理の状況

該当する事項はありません。

## V. 連結子会社等の状況に関する事項

1. 当社及びその子会社等の集団の構成(2019年3月31日現在)



2. 子会社等の商号又は名称、本店又は主たる事務所の所在地、資本金の額、事業の内容等

(2019年3月31日現在)

商号又は名称	本店所在地	資本金	事業内容	当社及び子会社等の保有する議決権の数	子会社等の総株主の議決権に占める当該保有する議決権の数の割合
株式会社FOLIO アセットマネジメント	東京都千代田区	100百万円	投資運用業	100,000口	100%

以 上